

令和7年度 第8学年 数学科 年間指導計画及び評価規準

学期	月	時数	単元の内容	知識・技能（評価方法：定期考査、小テスト、提出物等）	思考・判断・表現（評価方法：定期考査、小テスト、提出物等）	主体的に学習に取り組む態度（評価方法：定期考査、提出物等）
1	4	16	1章 式の計算 （1）式の計算 （2）文字式の利用	・簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ・具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 ・目的に応じて、簡単な式を変形することができる。	・既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。	・文字を用いた式の必要性和意味について考えようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
		5				
		6	2章 連立方程式 （1）連立方程式とその解き方 （2）連立方程式の利用	・二元一次方程式とその解の意味を理解している。 ・連立二元一次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。	・一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・連立二元一次方程式を具体的な場面で考察し表現することができる。	・連立二元一次方程式の必要性和意味について考えようとしている。 ・連立二元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・連立二元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
		7	3章 1次関数 （1）1次関数 （2）1次関数の性質と調べ方 （3）2元1次方程式と1次関数 （4）1次関数の利用	・一次関数について理解している。 ・事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ・二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ・変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ・一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	・一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ・一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	・一次関数について考えようとしている。 ・一関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
2	10	17	4章 平行と合同 （1）説明のしくみ （2）平行線と角	・平行線や角の性質を理解している。 ・多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。	・基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。	・平面図形の性質のよさを考えようとしている。 ・平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
		11				
3	2	12	（3）合同な図形	・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。 ・証明の必要性和意味及びその方法について理解している。 ・定義や命題の仮定と結論、逆の意味を理解している。 ・反例の意味を理解している。 ・正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。 ・≡などの記号を用いて図形の関係を表したり読み取ったりすることができる。	・三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたりすることができる。 ・証明を読んで新たな性質を見いだしたりすることができる。 ・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。 ・命題が正しくないことを証明するために、反例をあげることができる。	・証明の必要性和意味及びその方法を考えようとしている。 ・図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
		21				
		1	6章 確率 （1）確率 （2）確率の説明	・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解している。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。	・同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 ・確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。	・場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味について考えようとしている。 ・不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたている。 ・確率を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
		3	7章 データの比較 （1）四分位範囲と箱ひげ図	・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。	・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。	・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味について考えようとしている。 ・データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。
			1 0 5 時間			